

CSVサーベイランスネットワーク 第3回地域視察

2012年11月29-30日 福岡県・北九州市



《サマリー》

1日目：

「次世代エネルギー・社会システム実証事業」に選定された北九州市八幡東区東田地区から視察開始！

■CEMS視察：九州ヒューマンメディア創造センター、地域節電所
(www.human-media.or.jp)

同センターにて北九州スマートコミュニティ創造事業の概要を北九州市 環境局 環境未来都市推進室 スマートシティ担当の柴田泰平様よりお聞きしました。

定量的目標は下記2点。

- ・CO2削減目標：市内標準街区と比較して、2014年までに2005年比50%減
- ・安定供給：新エネルギー大量導入時においても、周波数・電圧変動を一定の範囲内に維持。事業数は38事業、総事業費は163億円（5年間）。

その中で、5つの柱を制定されています。

- 1) 新エネルギー等10%街区の整備
- 2) 建築物等への省エネシステム導入
- 3) 地域エネルギーマネジメントシステム(CEMS)の構築
- 4) 次世代交通システム等の構築
- 5) アジア地域等海外への発信

東田地区内では、気象予測とエネルギー需要予測、新エネルギー導入時の系統制御を組み合わせたエネルギーマネジメントシステムが導入されており、現在では70社・200世帯と大量導入されているスマートメーターと連動。

また、地域節電所では監視装置、中央制御装置を備え、エネルギー使用状況の他、太陽光発電等の各種電源を監視・運用し、電力網の安定化及び地域エネルギー利用の最適化を図っているとの事。



■BEMS視察：株式会社日鉄エレックス(www.ns-elex.co.jp/)

同社では、スマートコミュニティ構築の支援をしており、自然エネルギー、蓄電池を活用してエネルギー需給の最適化を促進している。



また多岐に亘る事業の中で、EV分野では急速充電装置（EV-50）、中速充電装置（EV-15、EV-30）にも取り組んでいる。



写真一番右はセンター内の現在の電力を表示中。

■北九州水素ステーション(www.f-suiso.jp/highway/kita_station)

本ステーションは福岡県・福岡水素エネルギー戦略会議が展開している「福岡水素戦略（Hy-Lifeプロジェクト）」の社会実証事業「水素ハイウェイ」の一環として2009年9月に運用が開始された。

隣接する新日本製鐵(株)八幡製鐵所で発生する副生水素をパイプラインにより直接供給するオフサイト型水素ステーションである。2010年度には経済産業省がめざす水素利用社会のための実証事業である「水素タウンプロジェクト」として、HySUTが同ステーションからのパイプラインによって市街地に直接水素を供給し、一般家庭や公共施設、店舗等に設置した定置用燃料電池のほかに燃料電池フォークリフトや燃料電池自転車等も含めた水素供給についての実証試験が行われた。

また、2011年度より5年間の計画で、水素供給インフラの商用化を目指して福岡県・佐賀県などが実施する「地域水素供給インフラ技術・社会実証」プロジェクト（NEDO事業）の地域実証試験に参画。

写真内の車は北九州市保有の燃料電池自動車。車両価格は約1億円。



■HEMS視察：水素エネルギー館・水素実証住宅

福岡水素タウン、水素ハイウェイに続く社会実証の第3弾として、一般住居や商業施設、公共施設に水素をパイプライン供給し定置型燃料電池等の燃料として利用する、世界初の次世代型水素エネルギーモデル都市「北九州水素タウン」の実証開始に伴い出来た、水素エネルギー館を見学。

引き続きその横にある、太陽熱利用の床暖房・蓄熱利用、太陽光発電などの再生可能エネルギーをはじめ、気密性、風の流れなどを工夫したエコハウスへ。

■北九州市環境ミュージアム(eco-museum.com)

環境ミュージアムは、世界の環境首都を目指す北九州市が整備する『市民のための環境学習・交流総合拠点施設』となっている。

第1ゾーンの「北九州市の変遷」から順に、「ゾーン公害克服の歴史」、「地球環境とわたしたち」「環境技術とエコライフ」「北九州市環境未来都市」と5つのゾーンに分かれて写真、ビデオが充実。環境学習センター、環境情報センター、環境活動センター機能として、小中学校の社会見学をはじめ、行政・企業・NPOなどが主催する環境イベントや環境事業、また国や他の自治体、世界の情報までの総合的情報を受発信しています。

さらには、市内で活動を行っているNPOや市民グループの活動拠点としても機能しているようです。

最後は、北九州市 環境局環境未来都市担当理事 松岡俊和氏を含め、柴田様、荒巻様、また同じく環境局の環境政策、環境学習の吉田様、石井様も同席され、北九州市の取組みについてお話を伺うことが出来ました。

「どこの地域でも独自の何かを生み出せるはずで北九州市が特別ではない」というお言葉が印象的でした。



2日目：CSVビジネス事例共有セッション

当CSVサーベイランスネットワーク活動の青果物として、2013年の春にCSVをテーマとした書籍の出版を企画しています。本年度の東京でのセッションや地方視察でのINPUTや各社のリソースを生かしたCSV事業事例の発表と共有を目的にセッションを行いました。

参加各社の皆様から、下記のようなCSV事例の発表をして頂き、また質疑応答を含め有意義な時間を過ごしました。



・トヨタ自動車様からは、トヨタの環境技術戦略として3つのPointでお話いただきました。

1. 自動車を取り巻く課題とトヨタの取組み
2. 石油代替燃料の特徴
3. 究極のエコカーを目指して

・LIXIL様は、「環境・エネルギー」ビジネスの現状の取組事例として、環境・エネルギー事情は各地方、各県により異なり、各地域で最適なソリューションを提案しているという趣旨でした。

・電通様は、「Think Pet Project」のご紹介とペットを絡めたスマートビジネスの可能性についてお話ししました。

・川崎重工様からは、効率的なエネルギー、環境と資源を考えたエネルギー、信頼できるエネルギーのあり方、グローバルに社会基盤を担う企業として、エネルギー環境の「いま」と「未来」を考え、新たな価値を提供し、安全・安心な社会の発展に貢献していくという趣旨の下、CO2フリー水素チェーンコンセプトと潮流発電システムの発表をして頂きました。

・主催者でもあるJTBからは、「EVモビリティ観光活性化事業」について発表がありました。



【懇親会会場より】

朝7時40分発の飛行機で北九州空港に集合。バスで新日鉄八幡製鐵所の工場の跡地が再開された一帯やスペースワールドを見ながら、10時過ぎには、九州ヒューマンメディア創造センターに到着しました。

昼食後は雨が降り出しましたが、恒例のハードスケジュールをバスで移動しました。夕方には雨もあがり懇親会へ。



朝夕方に顔をお出し頂いた環境未来都市推進室 スマートシティ担当の柴田さん、そして松岡理事にも合流して頂き、また今回は会員企業様の女性が2名参加されており、CSVな懇親会はいつも以上に盛り上がりました。皆さんお疲れ様でした！